幼稚園幼児指導要録
認定こども園園児指導要録
保育所児童保育要録

取扱い及び記入の手引き
（第２版）

令和６年１月

長崎県こども政策局

ま　え　が　き

「こどもまんなか社会」をスローガンとし、大人になるまで切れ目なく行われる子どもの健やかな成長のためのサポートをすることを目的として、令和５年４月に、こども家庭庁が発足しました。同時に、こども基本法も施行され、全ての子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会の実現をめざしております。

令和５年１２月には、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの１００か月の育ちビジョン）」が示されたところでありますが、その中で、幼児期と学童期以降の接続を不断に改善することが重要である、との指摘もなされております。

要録は、幼児の学籍並びに指導の過程とその結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものです。すなわち、幼稚園・認定こども園・保育所（以下、「幼稚園等」）での子どもの育ちをそれ以降の生活や学びへとつなげ、小学校において子どもの育ちを支え、子どもの理解を助けるという期待から、幼稚園等での生活を通して子どもが育ってきた過程を振り返り、その姿や支援の状況をまとめ、幼稚園等から確実に小学校等へ引き継ぐ大切な資料となっております。

しかし、要録の開示を意識するあまり、記載内容が形骸化、空洞化し、適切な指導、教育を行うための資料となっていない場合があり、そのため、小学校等において情報の引継ぎ資料として要録が十分に活用されていない場合もあります。

また、幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所ごとに異なる要録の参考様式が国から示されています。さらに、幼稚園と認定こども園については年齢ごとに担任等が作成するのに対し、保育所については年長児担任のみが作成するという違いがあります。こうした違いが、小学校等への円滑な情報提供を阻害する要因の一つであったことは否めません。

そこで、国から示された要録の参考例を基に、平成３０年１２月、長崎県として３つの様式に統一性をもたせ、様式の参考例と「取扱い及び記入の手引き」を作成しました。取扱いや記入の仕方についての基本的な考え方をまとめて示すことで、小学校等へ入学する前の教育・保育の場に違いがあっても、共通の視点で子どもの育ちを捉えると共に、統一した情報提供として、支援の継続ができるようになっています。

そして、今回、園務の情報化の推進にあたり、指導要録の原本の電子化や押印省略について付加し、５年ぶりに改定を行いました。

全ての子どもの情報の共有と切れ目のない支援のために、引き続き、本様式と本手引を御活用いただければ幸いです。

令和６年１月　　長崎県こども政策局長　　浦　亮治

目次

１　評価の基本的な考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　要録の改善の要旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

３　実施時期及び方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

４　要録様式の選択決定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

５　要録の取扱い上の注意　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

６　要録の記入上の留意点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

７　個人情報の保護、開示に関する配慮事項　・・・・・・・・・・・　８

８　特別な配慮が必要な子ども等の記入について　・・・・・・・・・　９

９　記入の参考　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２

１０ その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６

１１ 参考様式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

付録　国からの通知等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

【文中で使う用語について】

　対象が幼稚園、認定こども園、保育所であるため、便宜上、文中では以下の用語を使用する。

保育者；幼稚園教諭、保育教諭、保育士
要録；幼稚園幼児指導要録、認定こども園園児指導要録、保育所児童保育要録
幼稚園等；幼稚園、認定こども園、保育所
小学校等；小学校、義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部

１　評価の基本的な考え方

子ども一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施に当たっては、次の事項に配慮すること。

（１）指導の過程を振り返りながら子どもの理解を進め、子ども一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

（２）評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。

２　要録の改善の要旨

「指導上参考となる事項」について、これまでの記入の考え方を引き継ぐとともに、最終学年の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して幼児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入することに留意するよう追記したこと。このことを踏まえ、様式の参考例を見直したこと。

※　「１　評価の基本的な考え方」「２　要録の改善の要旨」は、平成３０年３月３０日付「幼稚園及び特別支援学校幼稚部における指導要録の改善について（通知）」及び「幼保連携型認定こども園園児指導要録の改善及び認定こども園こども要録の作成等に関する留意事項等について（通知）」から抜粋

３　実施時期及び方法

平成３０年３月３０日付け、２９文科初第１８１４号の「幼稚園及び特別支援学校幼稚部における指導要録の改善について（通知）」、同日付け、府子本第３１５号・２９初幼教第１７号・子保発０３３０第３号の「幼保連携型認定こども園園児指導要録の改善及び認定こども園こども要録の作成等に関する留意事項等について（通知）」、同日付け、子保発０３３０第２号の「保育所保育指針の適用に際しての留意事項について」を踏まえた要録の作成は、平成３０年度から実施すること。

令和５年４月１７日付け、「指導要録の原本の電子保存による校務の情報化

の推進について」、同日付け、「指導要録等の原本の電子保存による事務の情報化の推進について」を踏まえた要録の作成は、令和５年度から、園（所）の校務支援体制が整い次第実施すること。なお、園（所）の体制上など困難な場合は、従来どおり紙媒体で保存し、電子保存に向けて体制を整えていくこと。

４　要録様式の選択決定

幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）及び幼保連携型認定こども園については設置者が、保育所については各市町が、要録の様式を決定すること。保育所型認定こども園については、各市町と相談しつつ、設置者が様式を決定することができる。

５　要録の取扱い上の注意

（１）対象

・在園（所）する全ての子ども
・ただし、保育所においては、５歳児のみでもよい。（各市町が決定）

（２）作成

・子どもが入園（所）もしくは転入園（所）してきた場合、施設長の責任の下、子どもの担任等が作成する。
・ただし、保育所児童保育要録（Ｂ型）は、５歳児進級時に作成する。

（３）送付

・施設長は作成した要録の写し（又は、抄本）を卒園年度内に各小学校等の校長に届くように送付する。
・写しは原簿を電子複写機でコピーしたものでよい。
・写しには、原本と相違ないことが分かるような記載をすること。（原本と相違ないことの証明参考様式　Ｐ３２）
・個人情報を含む書類であることから、各幼稚園等で送付書を添え、直接交付（手渡し）や簡易書留郵便など確実な方法で各小学校等に届け、受領書を受け取る。受け渡しは代理も可とする。（送付・受領書の参考様式　Ｐ２９）
・受領書は各幼稚園等で作成し、小学校等で受領印を押印し、返送してもらう。
・転園（所）の場合は、転園（所）先が決定し、転入園（所）した後に送付する。転入園した子どもがさらに転園（所）した場合には、当該子どもに係る要録の写しと、転入園（所）により送付を受けた要録の写しを

送付し、当該園で作成した原本のみを保管する。

＜Ａ園からＢ園へ転園し、小学校等へ入学する場合＞
Ａ園：原本Ａを保管、原本Ａの写しをＢ園へ送付
Ｂ園：原本Ｂを保管、原本Ｂの写しと原本Ａの写しを小学校等へ送付

（４）修正

①　子どもの状況が変わった場合

提出日から３月 31 日までの間に、子どもの状況について、就学先の小学校等へ伝えるべき重要な変化（家庭の状況や健康状態等）があった場合には、施設長は原本に追記・修正したもの（追記・修正日を記入）の写しを小学校等の校長へ送付する。

②　就学先が変わった場合

送付した後に転居することになり、小学校等が変わる場合は、原本の就学先及び所在地を修正し、修正日を記入のうえ、転居先の小学校等の校長へ送付する。その際、すでに送付済みの要録の写しについては、原則として施設長が責任をもって回収する。

（５）保存期間

①　幼稚園・幼保連携型認定こども園

・要録及びその写しのうち学籍等に関する記録についてはその保存期間を２０年間とする。
・指導及び保育の記録については、学校教育法施行規則第２８条では５年間となっているが、要録の趣旨を鑑み、当該子どもが小学校を卒業するまでの間保存する。

②　保育所

①に準ずることが望まれる。

（６）外部への証明

要録の記載事項に基づいて外部への証明等を作成する場合には、その目的に応じて必要な事項だけを記載するよう注意すること。

（７）配偶者からの暴力の被害者と同居する子どもの場合

配偶者からの暴力の被害者と同居する子どもについては、転園した子どもの指導要録の記述を通じて転園先、転学先の名称や所在地等の情報が配偶者（加害者）に伝わることが懸念される場合がある。このような特別な事

情がある場合には、平成２１年７月１３日付２１生参学第７号「配偶者からの暴力の被害者の子どもの就学について（通知）」を参考に、関係機関等との連携を図りながら、適切に情報を取り扱うこと。

（８）情報通信技術の活用

評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、保育者の負担感の軽減を図るため、情報の適切な管理を図りつつ、情報技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録についても、書面の作成、保存を電子署名などを活用して行うことは、今後も進めていくこと。送付については、電子または従来どおり紙媒体で行うこととする。

６　要録の記入上の留意点

（１）全般的留意事項

- 記入に当たっては、原則として常用漢字及び現代かなづかいを用いる。
- 記入事項に変更のあった場合には、その都度記入する。
- 記入は黒の耐水性ボールペン書きとする。消えるものは使用不可。
- ゴム印の使用は可。黒インクで鮮明に押印する。
- 書面の作成、保存を情報通信技術を活用して行うことは可能である。
- 写しは原簿を電子複写機でコピーしたものでよい。
- 変更・訂正に際しては、各地方公共団体の文書扱い規定に則ること。従来行われてきた方法を参考として例示する。

（参考）

＜変更による書き換え＞

- 変更すべき事項に、一本線（赤）を引き、前の事項も読み取れるようにした上で、黒で新たな内容を記入する。訂正印は不要。
- 変更年月日を（　）書きで併記する。

＜誤記の訂正＞

- 訂正すべき事項に、二本線（赤）を引き、訂正印を押す。
- 修正液や砂消しゴム等の使用は不可。

（２）学籍（入所）に関すること

学籍（入所）に関する記録については、原則として学年当初及び異動の生じたときに記入する。

①　学級、組、整理番号

- ３歳以上の子どもの毎学年の所属学級を記入する。

・整理番号は、学級の名簿等、各施設（園・所）で整理しやすい番号を記入する。左から満３歳、３歳、４歳、５歳の欄として、記入する。不要な欄は空欄とする。

②　子どもの氏名・性別・生年月日及び現住所

③　保護者（親権者）氏名及び現住所

・親権を行う者１名を書く。親権を行う者がいないときは、後見人を記入する。つまり、法律上の保護者を記入する。したがって、父母と離れて祖父母の家から通っている子どもの場合でも、ここに記入するのは、祖父母ではなく、親権者である父あるいは、母となる。

・子どもの住所と同じ場合は、「幼児（園児、児童）の欄に同じ」と略記してもよい。

④　学籍の記録

ア　入園（所）年月日

イ　転入園（所）年月日

ウ　転・退園（所）年月日

エ　修了年月日（日付は３月３１日とする。）

・入園前に他施設に在籍していた場合は、転入園（所）の欄に記入、それ以外は入園（所）の欄に記入する。

・修了まで在籍した場合は、修了の欄に、それ以外は転・退園（所）の欄に記入する。

・ただし、育児休業等により、一時退園（所）し、再入園（所）した場合は、イとウの欄は記入せず、「入園前の状況」の欄に「〇〇年〇月～〇〇年〇月休園」とし（　）書きでその理由を書く。（母親の育児休業のため、本人の病期療養のため、母親の里帰り出産のため、等）

⑤　入園前の状況

・転入園（所）してきた場合は、前に在籍していた幼稚園等の名称、所在地が分かる場合は記入し、そこに在籍した期間も記入する。詳しい住所が分からない場合、都道府県市町村名など分かる範囲で記入する。

・それ以外の場合は、「特記事項なし」と記入する。

⑥　転園（所）・就学先等

・当該施設で修了した場合には、就学する小学校等について名称及び所在地等を記入する。

・当該施設から他の幼稚園等に転園（所）した場合には、転園（所）先が決定してからその名称と所在地を記入する。転園（所）先が不明の場合は、空欄にしておく。

⑦　施設（園）名及び所在地

・国、公、私立別も明らかになるように、正確な施設（園）名を記入する。（学校法人〇〇学園△△幼稚園、社会福祉法人〇〇会△△保育園　等）

⑧　各年度の入園（転入園）・進級時等の子どもの年齢、園（所）長の氏名及び学級担任等の氏名

・氏名を記入するのは、通常は学年当初及び子どもが転入園（所）してきたとき。

・年度途中で、担任等が替わった場合には、その担任名も併記する。

【幼稚園】

・左から、満３歳児、３歳児、４歳児、５歳児それぞれの学級枠として、４枠ある。不要な欄は空欄とする。

【認定こども園、保育所】

・上段には３歳未満、下段には３歳以上の学級（組）を記入する。

・上段は１歳未満で入園（所）し、年度が替わっても連続で０歳児の組に所属する場合等のため、４枠ある。

・下段は左から満３歳児、３歳児、４歳児、５歳児それぞれの学級枠として４枠ある。

・不要な欄は空欄とする。

・満３歳になっても、２歳児の組で年度末まで過ごす編制であれば、満３歳児の学級（組）欄は空欄となる。

・担当者が複数いる場合は、その子どもの要録を記入する担当者１名の名前を書く。

（３）指導等（保育）に関する記録

指導等（保育）に関する記録は、１年間の指導（保育）の過程とその結果を要約し、次の年度の適切な指導に資するための資料としての性格をもつものとすること。

①　氏名、生年月日、性別

②　出欠状況

【幼稚園・認定こども園】

・これまでは、出席停止・忌引き等の日数に関する特記事項、欠席理由

の主なもの、学級閉鎖等その他の出欠に関する特記事項を記入していたが、新様式では、その必要はない。ただし、特に引き継ぐべき事項（欠席が特に多い場合の理由など）がある場合は、「特に配慮すべき事項」の欄に記入する。

ア　教育日数

教育日数は、原則として、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき編成した教育課程の実施日数と同日数であり、同一年齢の全ての子どもについて同日数となる。ただし、転入園等をした子どもについては、転入園等をした日以降の教育日数を記入し、転園または退園をした日までの教育日数を記入する。

イ　出席日数

教育日数のうち出席した日数を記入する。

【保育所】

・要録Ａ型は、教育日数の欄は斜線。出席日数は、小学校等への送付日現在の出席日数を記載し、（〇月〇日現在）と併記する。
・要録Ｂ型は、出席日数の記入欄はないので、記載しない。

③　満３歳未満の園児に関する記録【認定こども園、保育所】

・満３歳未満の子どもの、次の年度の指導（保育）に特に必要と考えられる育ちに関する事項、配慮事項、健康の状況等の留意事項について記入する。
・特にない場合は、「特記事項なし」と記入する。

④　指導の重点等

当該年度における指導（保育）の過程及び子どもの育ちについて次の視点から記入すること。

ア　学年の重点

年度当初に、教育課程または全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入する。

イ　個人の重点

１年間を振り返って、当該子どもの指導について特に重視してきた点を記入する。

⑤　指導上参考となる事項

１年間の指導及び保育の過程と子どもの発達の姿について以下の事項を踏まえ記入する。

・幼稚園教育要領第２章「ねらい及び内容」、幼保連携型認定こども園教

育・保育要領第２章第３の「ねらい及び内容」、保育所保育指針第２章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるものを記入する。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

- 幼稚園等の生活を通して全体的、総合的に捉えた子どもの発達の姿を記入すること。その際、特別に配慮を必要とする子ども等、引継ぎが必要な配慮事項についても記入する。
- 最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、各要領の総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するよう留意する。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に子どもの育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に記入すること。
- 「特に配慮すべき事項」には、子どもの健康の状況等、指導上特に留意する必要がある場合について記入すること。例えばアレルギーがある場合、アレルゲンを全て記載する必要はないが「食物アレルギーあり」など、簡潔に記載する。また、入園（所）前のことでも、指導上特に配慮が必要で引き継ぐべきことは、記入する。特にない場合は、空欄のままでよい。

⑥　最終年度に至るまでの育ちに関する事項【保育所児童保育要録Ｂ型のみ】

- 子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関して、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

７　個人情報の保護、開示に関する配慮事項

（１）個人情報の観点から

要録は、子どもの氏名、生年月日等の個人情報を含むものであるため、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）等を踏まえて、施設長は、その取扱いを厳重に管理し、金庫・書庫など施錠が確実にできる場所に保管する。

個人情報の保護に関する法令上の取扱いは以下の①及び②のとおりであるが、個人情報の利用目的の明確化の観点から、あらかじめ、保護者に対して、個人情報を含む要録の趣旨及びその内容とともに、要録が就学先の小学校等へ送付されることを周知しておくことが望まれる。

①公立について
各市町が定める個人情報保護条例に準拠した取扱いとなる。
②私立について
当該幼稚園等が個人情報の保護に関する法律第２条第３項に規定する個人情報取扱業者に該当する場合については、原則として個人情報を第三者に提供する際には本人の同意が必要となるが、要録については、例外的に同意が不要となる場合を定めた同法第 23 条第１項第１号（法令に基づく場合）に該当するため、第三者提供について本人（保護者）の同意は必要ない。

（２）開示について
要録について、本人や保護者等から開示請求があった場合には法令等に基づき次のとおり対応する。
①公立について
各市町の個人情報保護条例に基づいた取扱いとし、他の個人情報の開示の取扱いと同様に対応する。
②私立について
個人情報の保護に関する法律に則って、適切に対応する。

※開示を必要以上に恐れ、子どもの良いところだけ書くのでは、要録は引継ぎの役目を果たさなくなる。子どもの課題がある場合にはそれについても書く必要がある。その際大切なのは、子どもの課題と指導の過程を保護者と共有し、家庭と連携して子どもの成長を支援することである。次に示す「８　特別な配慮が必要な子ども等の記入の仕方」も参考にし、小学校等への引継ぎとして役立つ内容を記載すること。

８　特別な配慮が必要な子ども等の記入について

子どもの切れ目ない支援のためには、小学校等への引継ぎが大変重要であるので、以下のようなことを踏まえて、具体的に記入する。
①子どもへの配慮や支援が必要な場面や、その様子。
②それに対し、どのような手立てを取ったのか。
（その手立ては有効であったものだけではなく、有効でなかったものも、指導の参考になる。）
③手立てによって、子どもがどのように変容したのか。
④家庭や外部機関との連携。
【指導上参考となる事項の記入例】

・声をかけると受け答えはするが、周りの子と関わらずに一日じっとしていることが多く、喜怒哀楽の感情表現が少なかった。保育者と一緒に友達の輪に入ることにはじめは抵抗していたが、少しずつ慣れてくると、大好きな折り紙を友達と互いに教え合う姿も見られるようになってきた。

・散歩など、屋外で活動中に集団を離れて飛び出すことがあった。気になるものを見つけると、一目散に向かうので、複数の担当で目を配りながら見守ってきた。勝手に出て行かないよう、「気になることは必ず教えてね」と約束をつくり、できたらほめるようにした。徐々に飛び出すことが減ってきている。

・衣服の着脱や、登園･降園時の準備や後片付けなど、周りの子が手伝う姿を見ることが多かった。家庭での様子を尋ねると、保護者が先回りをして、本人に任せていないことが分かったので、本人のできることは見守り、できたらほめることを保護者にも協力してもらったところ、少しずつ自分のことができるようになった。

・明るく朗らかで友人と楽しく遊んでいるが、保護者の仕事の関係で帰りが遅くなるためか、風呂に入っていない日が続いたり、朝食を取らずに登園したりと、家庭の生活が乱れがちである。保護者には園での様子を伝えながら改善についての声かけを行っている。

・水で服がぬれることを極端に嫌がり、服の一部がぬれるとパニックになったり、その場で洋服を脱いでしまったりすることがあった。「ぬれたら着替えることができる」ということを理解してからは、ぬれたときは、保育者に着替えを要求することができるようになった。

・食事の際、アルマイト製や金属製のスプーンやフォーク、割り箸を使うことはできないが、プラスティック製の物は使うことができる。食器の素材によって口に入れることができる物が限られているため、確認が必要である。

・みんなで集まるときに椅子に座っておくことができず、歩き回っていた。「挨拶のときだけは座ろう。」など、短い時間だけ着席する約束をして、約束が守れたときはほめることで、少しずつ約束の時間を延ばし、座れるようになってきた。

・戸外での運動遊びを好まず、室内にいることが多かったので、声をかけ、

戸外での遊びへの興味を高めるように支援をした。バランスをとることや階段を下りることが苦手であったが、遊びの中で体を動かすことで、少しずついろいろな動きがスムーズにできるようになってきている。

- いろいろなことが気になり、作業に集中できず鯉のぼりの作品を仕上げることができなかったが、机の上に使うものだけを用意させ、集中できているときにほめることで七夕の作品は仕上げることができた。

- 絵を描くことが好きで、クレヨンを持つとずっと描き続ける。次の活動の時間になってもポケットに入れていたクレヨンを使って自分だけ絵を描いていた。しかし、作業の終わりにクレヨンをきちんと戻す指導をすることで、気持ちの切り替えをすることができ、次の活動に集中できるようになった。

- 片付けの時間になっても遊びをやめようとしないので、毎回注意をするが、なかなか効き目がなかった。しかし、時計が読めることをほめ、何時に片付けなのかを確認すると、それから時間を見て片付けをするようになり、自ら友達に片付けの時間を知らせるようになった。

９　記入の参考

認定こども園園児指導要録（学籍等に関する記録）記入の留意点

年度 区分	令和　年度	令和　年度	令和　年度	令和　年度
学　　級	（満３歳）	（３歳）	（４歳）	（５歳）
整理番号				

新年号に変更

園　児	ふりがな 氏　名		性　　別	
		令和　　年　　月　　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			
入　　園	令和　　年　　月　　日	入園前の 状　　況		
転 入 園	令和　　年　　月　　日			
転・退園	令和　　年　　月　　日	転園・ 就学先等		
修　　了	令和　　年　　月　　日			
園　名 及び所在地				

法律上の保護者

在籍していた施設の名称及び所在地を記入
それ以外は「特記事項なし」

転園・就学先名称及び所在地

新年号に変更

年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月
園　　長 氏名	（０歳）	（０歳）	（１歳）	（２歳）
担　当　者 氏名				
年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月	令和　年度 歳　　か月
園　　長 氏名	（満３歳）	（３歳）	（４歳）	（５歳）
学級担任者 氏名				

年度途中の変更もあるので、上半分に記入する

押印はなし

幼稚園幼児指導要録（指導に関する記録） 記入例

新年号に変更

ふりがな		性別	指導の重点等	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
氏名				（学年の重点）	（学年の重点）	（学年の重点）友達と力を合わせて目的をもって遊びを進める。
令和　年　　月　　日生				（個人の重点）	（個人の重点）	（個人の重点）友達の意見を受け入れたり、自分の意見を伝えたりしながら遊ぶ。
ねらい（発達を捉える視点）			指導上参考となる事項			・進級当初は不安な表情で、登園時に母親と離れられなかったので、スキンシップを多く取り、安心感が得られるようにした。２週間ほどで、登園がスムーズになった。 ・療育機関に通うため、早退や欠席が多かった。欠席した翌日は、不安になり遊び出せないことがあるので、昨日どんなことをしたかを話し、保育者がそばにいるようにして安心できるようにした。 ・廃材を使って、作りたい物を工夫して作ることが好きである。発表会では自分で作った衣装で生き生きと踊りを楽しんだ。
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。					
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。					
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。					
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。					
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。			（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項） ＷＰＰＳＩ 全検査ＩＱ　９０ 言語理解指標　７５ 知覚推理指標　１０５ 処理速度指標　１１０ ストラテラ服用

出欠状況		年度	年度	年度
	教育日数			
	出席日数			

年度初めに記入、学年統一

年度終わりに記入、個別

幼稚園幼児指導要録（最終学年の指導に関する記録） 記入例

ふりがな		指導の重点等	令和　　年度
氏名	令和　年　　月　　日生		（学年の重点）
性別			（個人の重点）
ねらい（発達を捉える視点）			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	指導上参考となる事項	・お店屋さんごっこをしたいと提案し、友達と協力して準備を進めた。手先を使う細かい遊びが好きで、ビーズでアクセサリーを作りお店に並べた。色の組み合わせを工夫し、きれいなアクセサリーを作っていた。 ・地域の高齢者施設を訪問するとき、喜んでもらえるようにとプレゼントを考えて丁寧に作っていた。 ・友達と遊ぶときに、こうしたいという思いが強すぎて、意見がぶつかることもあった。友達の意見を聞くことも大事であることを話して聞かせ、しばらく時間をおくことで自分を振り返ることができるようになった。
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かに先生や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		（特に配慮すべき事項）
出欠状況	／　　年度		
	教育日数		
	出席日数		

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領第２章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

保育所児童保育要録（保育に関する記録）　最終年度に至るまでの育ちに関する事項　記入

<table>
<tr><td>ふりがな</td><td></td><td rowspan="2">保育の過程と子どもの育ちに関する事項</td><td rowspan="2">最終年度に至るまでの育ちに関する事項</td></tr>
<tr><td>氏名</td><td></td></tr>
<tr><td>生年
月日</td><td>年　　月　　日</td><td>（最終年度の重点）</td><td rowspan="4">・３歳から入園してきたが、それまで家庭では、身の回りのことを、母親がしてあげることが多く、入園してから、自分でできないことが多く、不安の原因になっていた。一つ一つ保育者が丁寧にやり方を教えると共に、保護者にも手を出さずに本人にさせることの大切さを伝えるようにした。少しずつ、できることが増え、自信につながり、自分が発揮できるようになってきた。
・水や泥で汚れることを好まず、砂場でも靴をぬがなかった。４歳に進級してから初めて裸足で砂場で遊べるようになった。
・入園当初は、野菜が嫌いで、ほとんど食べられなかった。少しでも食べられたときは、ほめ、保護者にも伝えるようにし、少しずつ食べられる種類や量を増やしていった。</td></tr>
<tr><td>性別</td><td></td><td>（個人の重点）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ねらい
（発達を捉える視点）</td><td rowspan="2">（保育の展開と子どもの育ち）</td></tr>
<tr><td>健康</td><td>明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</td></tr>
<tr><td>人間関係</td><td>保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</td><td rowspan="8"></td><td rowspan="2">幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。</td></tr>
<tr><td>環境</td><td>身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言葉</td><td>自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</td><td rowspan="6">健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現</td></tr>
<tr><td>日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。</td><td rowspan="4">（特に配慮すべき事項）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">表現</td><td>いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</td></tr>
<tr><td>生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</td></tr>
</table>

１０　その他

（１）記入すべき事項が多い場合は、別紙の添付も可とする。

（２）「学籍（入所）の記録」と「指導等（保育）に関する記録」は、保存期間が違うため別葉とする。（Ｐ３（５）保存期間　参照）

（３）指導等（保育）に関する記録と最終学年の指導に関する記録は１枚（裏表印刷）とすることが望ましい。少なくとも、小学校等へ送付する写しは１枚（裏表印刷）とすること。

（４）保育所児童保育要録のＢ型（Ｐ２６参照）については、「入所に関する記録」と「保育に関する記録」を１枚（裏表印刷）とする。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」は、小学校等への送付は１枚とする。

１１　参考様式

（１）長崎県版幼稚園幼児指導要録

幼稚園幼児指導要録（学籍に関する記録）

区分＼年度	令和　年度	令和　年度	令和　年度	令和　年度
学　　級				
整理番号				

幼　児	ふりがな 氏　名		性　別	
		令和　　年　　月　　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			
入　園	令和　　年　　月　　日	入園前の 状　況		
転入園	令和　　年　　月　　日			
転･退園	令和　　年　　月　　日	転園・ 就学先等		
修　了	令和　　年　　月　　日			
幼稚園名 及び所在地				
年度及び入園（転入園） ・進級時の幼児の年齢	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月
園　　長 氏　　名				
学級担任者 氏　　名				

幼稚園幼児指導要録（指導に関する記録）

ふりがな		性別	指導の重点等	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
氏名				（学年の重点）	（学年の重点）	（学年の重点）
令和　　年　　月　　日生				（個人の重点）	（個人の重点）	（個人の重点）
ねらい（発達を捉える視点）						
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		指導上参考となる事項			
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。					
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。					
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。					
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。			（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）
出欠状況		年度	年度	年度		
	教育日数					
	出席日数					

幼稚園幼児指導要録（最終学年の指導に関する記録） 記入例

ふりがな		指導の重点等	令和　　年度
氏名	令和　　年　　月　　日生		（学年の重点）
性別			（個人の重点）
ねらい（発達を捉える視点）			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	指導上参考となる事項	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。		
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。		
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。		
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。		
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。		
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。		
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。		
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かに先生や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。		
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。		
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		（特に配慮すべき事項）
出欠状況	／　　年度		
	教育日数		
	出席日数		

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領第２章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

（2）長崎県版認定こども園園児指導要録

年度 区分	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
学　　級				
整理番号				

園　児	ふりがな 氏　名		性　　別	
		令和　　年　　月　　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			
入　　園	令和　　年　　月　　日	入園前の 状　　況		
転 入 園	令和　　年　　月　　日			
転・退園	令和　　年　　月　　日	転園・ 就学先等		
修　　了	令和　　年　　月　　日			
園　名 及び所在地				

年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月
園　　長 氏　　名				
担　当　者 氏　　名				
年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月
園　　長 氏　　名				
学級担任者 氏　　名				

認定こども園園児指導要録（指導等に関する記録）

ふりがな		性 別
氏名		
令和　　年　　月　　日生		

ねらい（発達を捉える視点）	
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
人間関係	認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

出欠状況		年度	年度	年度
	教育日数			
	出席日数			

指導の重点等	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
	（学年の重点）	（学年の重点）	（学年の重点）
	（個人の重点）	（個人の重点）	（個人の重点）
指導上参考となる事項			
	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）

【満3歳未満の園児に関する記録】

園児の育ちに関する事項	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度

認定こども園園児指導要録（最終学年の指導に関する記録）

ふりがな		指導の重点等	令和　　年度
氏名	令和　　年　　月　　日生		（学年の重点）
性別			（個人の重点）
ねらい（発達を捉える視点）			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	指導上参考となる事項	
人間関係	認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		（特に配慮すべき事項）
出欠状況	年度		
	教育日数		
	出席日数		

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第２章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

（3）長崎県版保育所児童保育要録（A型）

年度 区分	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
組				
整理番号				

児　童	ふりがな 氏　名		性　　別	
		令和　　年　　月　　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			

入　　所	令和　　年　　月　　日	入所前の 状　　況	
転 入 所	令和　　年　　月　　日		
転・退所	令和　　年　　月　　日	転　所・ 就学先等	
修　　了	令和　　年　　月　　日		

施　設　名 及び所在地				
年度及び入所（転入所） ・進級時等の児童の年齢	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月
施　設　長 氏　　名				
担　当　者 氏　　名				
年度及び入所（転入所） ・進級時等の児童の年齢	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月	令和　　年度 歳　　か月
施　設　長 氏　　名				
担　当　者 氏　　名				

保育所児童保育要録（保育に関する記録）

ふりがな		性 別
氏名		
令和　　年　　月　　日生		
ねらい（発達を捉える視点）		
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。	
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。	
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。	
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。	
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。	
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	

出欠状況		年度	年度	年度
	教育日数			
	出席日数			

指導の重点等	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度
	（学年の重点）	（学年の重点）	（学年の重点）
	（個人の重点）	（個人の重点）	（個人の重点）
指導上参考となる事項			
	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）	（特に配慮すべき事項）

【満3歳未満の子どもに関する記録】

子どもの育ちに関する事項	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度	令和　　年度

保育所児童保育要録（最終学年の保育に関する記録）

ふりがな		指導の重点等	令和　　年度
氏名	令和　　年　　月　　日生		（学年の重点）
性別			（個人の重点）
ねらい（発達を捉える視点）			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	指導上参考となる事項	
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		（特に配慮すべき事項）
出欠状況	年度		
	教育日数		
	出席日数		

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第２章「保育の内容」に示すねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。	
健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

（４）長崎県版保育所児童保育要録（Ｂ型）

保育所児童保育要録（入所に関する記録）

<table>
<tr><td rowspan="3">児童</td><td rowspan="2">ふりがな
氏　名</td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">性　別</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">年　　月　　日生</td></tr>
<tr><td>現住所</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保護者</td><td>ふりがな
氏　名</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>現住所</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>入所</td><td colspan="2">年　　月　　日</td><td>卒　所</td><td colspan="2">年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>就学先</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">保育所名
及び所在地</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">施　設
長
氏　　名</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">担　当　者
氏　　名</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

保育所児童保育要録（保育に関する記録）

<table>
<tr><td>ふりがな</td><td></td><td rowspan="2">保育の過程と子どもの育ちに関する事項</td><td rowspan="2">最終年度に至るまでの育ちに関する事項</td></tr>
<tr><td>氏名</td><td></td></tr>
<tr><td>生年
月日</td><td>年　　月　　日</td><td>（最終年度の重点）</td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>性別</td><td></td><td rowspan="2">（個人の重点）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ねらい
（発達を捉える視点）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">健康</td><td>明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</td><td rowspan="9">（保育の展開と子どもの育ち）</td></tr>
<tr><td>自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</td></tr>
<tr><td>健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人間関係</td><td>保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</td></tr>
<tr><td>身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。</td></tr>
<tr><td>身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">環境</td><td>身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</td></tr>
<tr><td>身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</td></tr>
<tr><td>身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">言葉</td><td>自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</td><td rowspan="9"></td><td rowspan="3">幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。</td></tr>
<tr><td>人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</td></tr>
<tr><td>日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。</td><td rowspan="6">（特に配慮すべき事項）</td><td>健康な心と体</td></tr>
<tr><td rowspan="3">表現</td><td>いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</td><td>自立心</td></tr>
<tr><td>感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</td><td>協同性</td></tr>
<tr><td>生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</td><td>道徳性・規範意識の芽生え</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>社会生活との関わり</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>思考力の芽生え</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>自然との関わり・生命尊重</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>言葉による伝え合い</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>豊かな感性と表現</td></tr>
</table>

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

保育所保育指針第１章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第２章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

保育所児童保育要録（保育に関する記録）の記入に当たっては、特に小学校における子どもの指導に生かされるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に子どもの育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

（5）原本と相違ないことの証明様式例

写

日付を入れる

余白であればこの場所でなくともよい

この写しは原本と相違ないことを証明します。
令和○年○月○日
○○○○園（所）長　○○○○　印

幼稚園幼児指導要録（学籍に関する記録）

区分＼年度	令和　年度	令和　年度	令和　年度	令和　年度
学　級				
整理番号				

幼　児	ふりがな 氏　名		性　別	
		令和　年　月　日生		
	現住所			
保護者	ふりがな 氏　名			
	現住所			

入　園	令和　年　月　日	入園前の 状　況	
転入園	令和　年　月　日		
転･退園	令和　年　月　日	転園・ 就学先等	
修　了	令和　年　月　日		

幼稚園名 及び所在地	

年度及び入園（転入園） ・進級時の幼児の年齢	令和　年度 歳　か月	令和　年度 歳　か月	令和　年度 歳　か月	令和　年度 歳　か月
園　長 氏　名				
学級担任者 氏　名				

（6）指導要録（写し）送付・受領書様式例

（　　※1　　）要録（写し）送付書

送付日　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　小学校長　様

（　　※1　　）要録（写し）を送付いたします。

提出数　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　名

施設名

施設長名　　印

電話番号

上記内容をご確認の上、下記受領書を返信用封筒に入れ施設宛てにご返送願います。

---------- 切り取り ----------

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　宛

（　　※1　　）要録（写し）受領書

送付日　　年　　月　　日

（　　※1　　）要録（写し）を受領しました。

受領数　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　名

受領日　　年　　月　　日

学校名

校長名　　印

電話番号

【注意】（　　※1　　）は、「幼稚園幼児指導」「認定こども園園児指導」「保育所児童保育」のいずれかに置き換えて使用すること。